

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



二 圭田須 兼編輯 市田上縣野長 校學門專絲鳳田上所行發 會 町縣南市野長 社會式株開新日每週信 所刷印

世の視聽を集めつゝある

伊佐農林學校を訪ふの記(一)

(雜誌農業教育の記者が昨年八月同校を訪ひ、九月號に掲載せしものを移記して、同校の内容を報告し各位の御參考に供したいと思ふ……編輯者)

南國の鹿兒島に最近嶄然頭角を現して斯界の耳目を引いて居る學校が一つある。昔の鹿兒島本線今の肥薩線栗野驛から乗換へ、大口驛で下車徒歩で約卅分伊佐平原の眞中に磐石の礎を据えた白聖の建物がそれだ。

—鹿兒島縣立伊佐農林學校—
創立は大正三年大正帝即位記念として設立山緒深い歴史を持つてゐる。職員十六名生徒二百名高卒三ヶ年修業。

建物や園場はよく完備整理されて余すところが無い。校舎内外歩一步視界に入るもの皆敬服に値する。

その昔開墾に苦勞したといふ荒地も、今は平坦な沃地となつて、十二分に活躍の出来る舞台となつて居る水田(一町七反余)から畑地(三町七反)を一直線に貫いた本幹道路(長さ五〇〇米幅四米)の片側には、南

洋風景そのまゝの棕櫚の並木、片側には柿と桑を取り交せて仕立て、尙茶樹まで配合して、空地の利用と美の調和に苦心のあとが見える。傍に造つた一米幅コンクリートの溝にはモートルで吸ひ上げられた水が大きなプールから溢れて谷川のせせらぎに似て絶えず流れてゐる。水量の豊富さ、水の綺麗なが誇りらしい夏の湛水には申分ない。時々群をなして鯉魚の躍るのが見える。水田養鯉も却々盛んな山。之が評判になつて昨今稚魚の配布に困つてゐるとの

水道の下流に風變りな建物が妙に好奇心をそそる。近代文化の玉座鐵筋コンクリートの二階建、豚と鶏のアパートメントだ。變れば變る世の中だ、階上が鶏、階下が豚君。その道の人も感心して見入つたとか、兎に角成績はすこぶる宜敷いそうだ。思ひ付きが奇抜で斬新であるだけ參觀者の度胸を抜く。鶏は縣でも先進地、今又豚の奨励に熱心な熊成豚だけでも十八頭仔豚を合すれば百頭

を突破する豪勢だ。農學校の豚で仔を生ませ得る處は少い。
象牙の塔を出て眞剣に農村理想境建設へと努力精進してゐる姿こそ眞に頼もしい限りである。

山本三六郎著
化學純絹絲の工業的完成 ¥0.30
伊太利蠶絲絹業の現況原因と其修正 ¥1.50
普原勇治著
蠶絲業法規要論 ¥2.30

市田上縣野長 所行發
會究研學科絲蠶 (振替長野6413番)

實習場—は五百米本幹道路を基準に縦横に井然と細い道路で區劃され之れを八組の家族で分擔する仕組である。即各一家族は三年二年一年と縦に結合され、上級生が組長となり職員を顧問に置き、指導を仰いでゐる。一家族の所有地は水田二十アール果樹園四アール蔬菜園六アール普通作四アール特作二アール桑園四アール苗圃二アールのよい集團農場だ。其他に豚二、鶏二十、蜜蜂二など總ての農業要素を包含する。尙組合所有の乳牛四、馬一、山羊六、兎十、七面鳥、鴨等があり廣い牧草地もある。又校外に柑橋園三十アール、演習林五千八百アールもあつて、皆平等に責任を負擔してゐる。各家族は一家の農家として生活し休養せしめる教育法である。生活即教育の力強い体験を修練してゐるのである。學校を擧げての勞作であり、勤勞であり、汗の体験である教育即生活の信條が強く燃えてゐる。全身全我の躍動である。百二十%の奮闘である。

之でなければ駄目である、そこには教師も生徒もない。校長も職員もない。裝は通勤にも教室農場でも常に一枚の農務服(作業服とも云ひ一着五圓)で然も年中押し通して居る。若いハイカラな職員には少しづつからうと思はれる位だがそんな氣配も見えず眞の懸命だ。それでよいのだ命懸けでやればそこに自ら慰めるものも現れて来る。この校風を慕つても毎年縣外からも、遠く朝鮮台灣からも、生徒が集つてくると。最近遠近からの視察者もメツキリ増えて職員は益々多忙だが、此の多忙さは求めても得られるものではない。最近九州各縣の農學校長さんは勿論島根縣、廣島縣、靜岡縣、高知縣等からも視察に來られ念入りなことになる

あれやこれや

山が白くなつた。山への誘惑が始つてゐる。年の暮から、年の始めへ掛けて、暇のあると同時に金のある連中が山へ出かけて行くだらう。七つ道具に、大きなスキーを擔いで出かけて行くだらう。勿論中には女を連れて行く幸福者もあるだらう。だがかくの如く恵まれてゐる諸君の中には過去の経験よりすれば雪の何とか山征服といつて高い山へ登つて、吹雪や雪崩れにやられて、とんだ迷惑をかけるものが出ないとも限らぬ。金や暇に委せて雪の山披渉もいゝがそれがため地元農民に迷惑を掛けぬやうにした方がいゝよ、念のため一言申し上げておく。

と職員全体を連れて來たり、尙生徒迄連れて來て寄宿舎忠元園に宿泊し早朝の訓練から夜の動作まで見る者も多くなり、大抵は二日掛りで研究して行く者が多い様である、一昨年は文部省から木村實業學務局長閣下が來校視察され感嘆されて歸られ文部省に農林學校長會議や、視學官會議や、講習などのある度毎に必ず引例して同校の教育を推奨して居るとの事である。此の頃も文部省督學官岡村精次氏來校視察され同校の經營振りを大に各農學校に吹聴し居らるゝ由、全く以て同校は目下農業教育の超先端を行き、時代の潮流に迎合して奏功、今や斯界の權威として全く羨望の限りである。(以下次號)

確 氷 茂

一九三二年の春。この一九三三年といふ年に如何なることがわれわれを待つてゐるかそれはわからぬ。だが何れにせよわれわれに大した幸福を齎すものではあるまい、といふことだけは確かだらう。そもそも年が一つ増える、などといふことから芳しくない願みると俺の周囲は、だんだん妻君を持つたり、子供を備けたりしてゐる。そして、何だか年寄りになることを喜んでゐるやうに見える仕方がない。年はとつても、心の若さは失ひ度くないものだ。

頼りにならぬ生きものは女だ。戀をしてゐる頃の、意中の女性は神様のやうに思はれもするが。戀も何も

なくなつた女性は實につまらぬ動物になつてしまふ。

「こんなことをいふと勝氣な女に叱られさうだな。黙つてゐて下さい。これでも時には女性を禮讃すること無きにしても非ず、ですからね。」

最近硫酸製造會社が販賣組合といふものを作つて盛んに硫酸の價格を引きあげてゐる。その結果最近硫酸が筒棒に高くなつた。聞くところによると、昭和七年の夏秋蠶相場が莫迦によかつた、といふ理由でドンドン引き揚げるのださうだ。おかげで迷惑なのは、その高い硫酸を買はなくてはならぬ百姓だ。

爲替安、それからインフレーション、等が原因で物價が騰貴する。僕等の生活は壓迫される一方だ。安月給取なので、最低生活を、しかも漸くやつてゐたものだが、斯う物價が上つては閉口だ。さうかといつて収入の増える見込みはないし。困つたものだ。ピーピー生活は果していつ迄続くことやら。

「小澤勇君が死んだ」といふ。僕は餘り君と交際をしてゐなかつたから君をよく知つてはゐなかつた。京都にゐる頃、君が旅行で京都の僕等の學校へやつて来たことがあつたが、僕が君に逢つたのは多分、上田を出てからは、その時が最初だつたと思ふ。それから九州大學を出た君が、諏訪の取締所へ来た、と誰かに聞かされたが、昨年僕が出張で伊那へ行つたときに、僕は伊那町の取締所から原君の下宿へやつて来た君と落ち合つた。その時君は結婚した

許りと聞かされた。そして僕は「中央へ出て来ませんか」といつたが、君はそれに答へて「そうですね。こんなところゐても仕方がありませんね」といつてゐた。さうして君と別れたのだが、君との交渉の總てはそれで終つて了つたのだ。尤も僕は、伊那の方の話が出る度に君を思ひ出してゐた。君を伊那に置くことは惜しいことだと思つてゐた。ところが遂に君は伊那の谷を出ることなく地上を去つた。いま僕はこれを書きながら、非常に君の死を惜しんでゐる。伊那の谷を思ひ出しながら惜しんでゐる。人間は死んで駄目だ。君は生前無理をされたではなかつたか。

奄美大島を語る

福 富 生

伊豆の大島を知る人も奄美大島を知る人は少いかもしれぬ然し大島納の本場と言へば男よりも婦人に知られて居る程大島納は今日でも手織りで其の染色の如きも特殊な土とシヤリンバイと云ふ木の皮にて染め上げる等全く原始的な他の眞似出来ぬ獨特な織物である大正時代の好景氣時代は納一匹七、八十圓以上で壹千万圓からに達し島民は金を費ふに困りビールで足を洗つたと言はれて居るが交通文化に恵まれぬ所では金の有難味の少いのは當然かもしれぬ然し現在では納も好景氣時代の三分の一もせず生活に困つて居る好況時代は女は納を織り男の子は學校に入れ此の邊鄙な島から大學や専門學校を卒へた者は多數あるが現在では學費が續

僕には何となくそんな様に思はれてならない。兎に角君の死は早すぎた。

俺はきりやうが悪いさうだ。とりわけ鼻の恰好が悪いさうだ。「どうりで僕には女が近寄りぬわい」と僕がいふと斯う答へた男がある。「いや、さうでないよ。女は妙なものだ。君のやうな男を好くものがあるよ」

かす休學して居る者が多い然し同じ困つても金が無いのみで食へぬ心配は少しも無いそれは甘藷が一年中栽培される故藷を掘り取つた後に藷を挿して置けば三ヶ月もすれば又藷が出来るからである藷は一年に一回藷は落葉するものと考へて居る本土の人には全く藷の様な事實である鹿兒島港から本郡唯一の町であり都會である名瀬町まで二百五海里で十八時を要し神戸港より二晝夜を要する鹿兒島よりは二千噸級の船神戸よりは三千噸級の船が通つて居るから普通の天候の時はシー、シツクに罹る様な事は無い僅か鹿兒島より一夜明けて大島に上陸せんか信州では雪の外見の事も出来ぬ一月の末に櫻の花が咲きバナ、パイア等の自然生に

實が結び名も知れぬ熱帯植物に至る所に繁茂し冬の姿は何所にも見出されずオーパー所か多仕度では暑くて歩るきもならぬ二月初には櫻の花が咲き末には麥の穂が出る三月には田植が始まり春蠶の第一回目が飼育され四月には繭が出る第二回目の春蠶でも信州の春蠶より早い五月中旬より六月下旬迄は梅雨期で最も嫌な天候が一ヶ月半位續く七月の盛夏の候は案外涼しく氣温三十度を越ゆる事は稀れである之れは黒潮に圍まれた島國故涼風絶えざる爲めである然し夜間温度下降せず夕方海陸風の交代の時に蒸暑い七月の蠶は二十日以内で上簇するが桑不足さへさせねば病蠶所か立派な繭を作る八月は暴風時期で年によりは何回と暴風雨の襲來する事あるも家の構造が耐風的で構造も甚だ簡單に小さく開放的なる事本土で見るとは出来ぬ桑は暴風雨で古葉が落葉しても二週間もすれば舊に復し却つて新葉が一齊に發芽し晩秋蠶飼育に好都合である島桑の發芽力の旺盛なる事は全く普通桑の比で無く葉を摘みさへすれば何時でも年中發芽し一年に五回も六回も植付の秋より摘桑しても萎縮病は絶体に生ぜず本土の桑樹栽培法は當てはまらぬ蠶も晩秋より初冬の養蠶は天下無敵で天然育で春蠶一化性を容易に飼育出来る此れ島桑は年中發育して居る故春の葉も秋の葉も養分の上にて於て大差が無い上氣候が良いからである春秋共蠶卵も微粒子も絶無で蠶種製造地としても天恵の地である然し沖繩が縣外よりの有毒蠶種を持参され困つて居る様だが病毒の浸入せぬ様今から警戒はして居る本郡養蠶が天恵を有しながら今日迄發達せざ

りしは本郡獨特の養蠶を行はざりし爲め葉の品種も魯桑を植へたり飼育時期も本土と同様に於て失敗したり出来た繭は二足三文で買ひ取られたり指導獎勵の不備に由る所が多い其れが漸く昭和四年より大島産業振興計畫中に蠶業振興計畫が樹てられ蠶業試験場大島支場を初め各種の獎勵施設が行はれ桑苗の無償配付、乾繭場稚蠶共同飼育、座繰機の補助町村技術員の補助等を行ひ養蠶の基礎が出来た程度に過ぎぬ目下第二期振興計畫を樹て政府に請願中なるが蠶種より製絲更に撚絲紡糸一貫した本郡獨特の計畫の下に養蠶の指導獎勵を行ふ豫定故本計畫が實現された時は本郡の養蠶も面目を一新するものと信じてゐる本縣は本郡を除けば畑地の廣き事北海道に次農家戸數の多き事本邦一に加へ氣候又育蠶に適すを以て繭價三圓以上なれば本縣の養蠶は充分發展の余地ありて昭和産業が桑を植へて居る笠の原は七千町歩よりの平野が藷を作る程度しか利用されておらぬが昭和産業も松野、唐澤兩兄が活動せられ二千町歩の桑園から四十万貫の收繭を擧げる計畫とかで昨年迄參觀を許さず世人から疑惑視されてゐた同社も本年からは開放し新興の意氣を以て奮闘されておる松野君先般來島せられ十一月中旬本郡で同社原蠶種の増殖中である。之は各地より蠶種製造に來島の豫定である。沖繩に行かれる同窓生も多いと思ふが其の節は御立寄り願ふ次第である。又冬季飼育に關しては調査書があるから御希望の方には差し上げて宜い倉澤兄より何か島の模様を書く様にとの事だつたから赴任後まだやつと四ヶ月交通

不便な廣い郡の事であり試験場取締所獎勵の八百屋の事とて多忙でまだ見ぬ島もある位だからまだ島の實狀を語るには早い。其の内暇になつたら面白い島の生活でも御知らせする事にして筆を擱く。

熊本千曲會便り

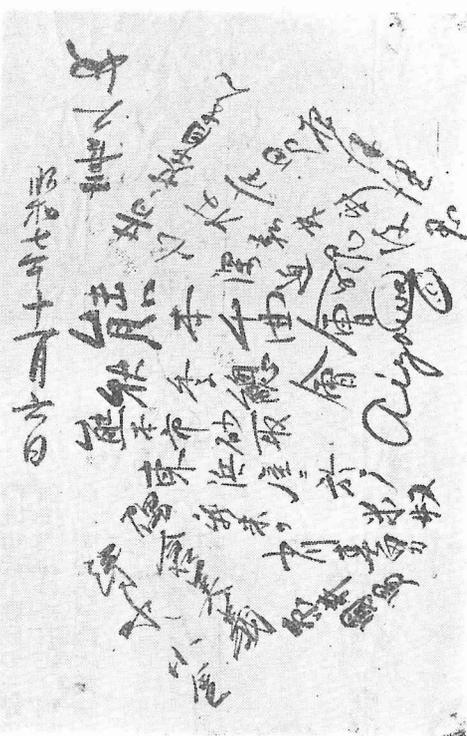
一種の型にはまつた様な千曲會便りを書く様になつて仕舞ふので何か珍しい事もあるだらうかと考へたが別段珍しいこともない。左様だ全國何處の國へ行つても其土地土地によつて所の歴史、地理、風俗、風景習慣、人情等を巧に言ひ表す民話がある筈だ。たとへば佐渡おけさ、木曾節、伊那節、等々全國的に唄はれて居るものでも數十を數へることが出来るから、其土地土地の一小部分のみで唄はれて居るものは數百にのぼるであらう。熊本にも熊本情調を多分に表す幾多の民話がある。其代表的なのは「オテモヤン」キキラキン「田原坂」「火の國小唄」等である。これ等の一節を書いて御照會に及ぶと。

オテモヤン

オテモヤン あんた此頃嫁入したではないかいな。
嫁入りしたこつアしたバツテン御亭主が菊石だるけん。
まアだ盃アせんだつた 村役高役肝入りどん、あん人達の
居らすけんで、あとは、どうなつときやア成るたい。
川端町つあんきやアめぐる、春日南瓜どん達ア唄ひつ張つて、
花盛り〜(ハヤシ)チーク〜雲雀の子、ゲンバク茄子のイガ〜ドン

キンキラキン

肥後の刀の下緒の長さ長きバイ
ソラ キンキラキン
まさかちがえは玉だすき
ソレモソウカイキンキラキン
キンキラキンのガネマサドン
ガネマサドンなヨコバイ〜
田原坂
一、雨は降る〜ジンバは濡れて越すに越されぬ田原坂
二、右手に血刀、左手に生首、馬上ゆたかに美少年



三、泣くな我妻、勇めよ男子等、戦地に立つは今なるぞ
四、山に屍 川に血流る 肥薩の天地 秋淋し
五、草をしとねに 夢や何處 明けの御空に日の御旗
火の國小唄
一、沖の不知火流れて消えてヨ
月の有明夜が白む
こゝは火の國火の様に燃える
男女の住む所
ホニニコカ〜ヨカバイノバイ
二、櫻吹雪は天まで染めるヨ
森の都の城の上
五十四萬石穂に咲く國は
虹も田に敷く嶋に敷く

ホニニコカ〜ヨカバイノバイ
三、並ぶオフィスのあの窓、窓がヨ閉まりやカフエーに灯がともる
ジャズで踊るとシネマで泣くこと
月は微笑む新市街
ホニニコカ〜ヨカバイノバイ
四、山のエー・ワン大阿蘇はヨ
草の千里に火の柱
パスのサイレン怖ぢるな黒馬よ
行けば龍膽の花が散る
ホニニコカ〜ヨカバイノバイ
五、球磨の川波や男の意氣地ヨ

岩に砕けよと厭やせぬ
まゝよ船頭業に預けた命
空に嗚け槍倒し
ホニニコカ〜ヨカバイノバイ
六、戀の天草裸になるとヨ
戻りや情が身にしみる
雨か狭霧か出船の朝の
濡れた眼もとが目に残る
ホニニコカ〜ヨカバイノバイ
此等の歌は實によく熊本を言ひ現して居る。熊本も大蘇阿の様な豪壯な山があるかと思へば天草の様に美しいエロチックな島々が有明海に並んで居ると言ふ様な工合に仲々變化が多い。同窓の諸兄も出張の場合と

か、殊に旅行される時とか言ふ様な機会に一度は熊本へ來遊されんことを望むものである。

筆者は熊本千曲會の近狀を報告する義務があるから餘談はこの位にして置いて話を本筋に進めるが、同窓會の代議員會が上田で開かれるので十一月六日午後四時種々協議談する關係上例により例の通り秋季總會を熊本市砂取東濱屋に開催、集つた顔觸は、田浦會長を初め見波忍氏、太田慎一郎氏、若林新一郎氏、相澤仲司氏、深迫明氏、小川春男氏、隅倉美義氏、原井國男氏、根津健氏、と筆者の小林重男を合せて十一名にして議題は代議員會提出問題、役員改選等で今度の當支部出席代議員は夏の總會で決定せる父母仙藏氏差支への爲見波忍氏出席となり、役員は全部左記の通り留任となつた。

- 會長 田浦 準
- 幹事 太田 慎一郎
- 幹事 小林 重男

會員の異動は茨城縣石岡の小口組製絲に長らく奮闘中であつた相澤仲司氏が鐘紡甲佐製絲場の工務主任として來任せられ茨城で磨いた手腕を益々發揮せらるゝこと、我々は期待して居る。信州伊那の高木館下平製絲場に居られた小川春男氏が製絲業法實施と同時に縣廳蠶絲課勤務となり田浦氏の下で働くことになり政争の激しい縣内を奔走することは誠に御苦勞千萬と言ふべきである。尙相澤氏は筆者と同様信州小諸在の出身小川氏は信州屋代出身である。根津健氏は丁度小川町の若林製絲場へ滋賀縣の本社から出張中の所にて折よく此會合に出席せられ懇談せられ

たことは嬉しかつた。筆者は未だ一度も面接の榮を得ないが一時郷里鹿本郡に靜養せられて居た巢山氏は他へ轉出された。 小林重男記す

群馬千曲支會總會顛末

十一月十九日午後五時前橋市榎町福久屋に於て支會總會を開催本部から校長閣下、倉澤理事、本部總會を前に控えて御多用の處を御來駕被下盛會を極めた。
從來兩毛支部と稱して居たのを今回群馬千曲支會と改稱することとした。

總會は織田支會長の議事進行振り誠に宜敷「エー既に宴會の時間にもなつて居りますので……御意見のある方は御遠慮なく御述べを願ひます夫れで時間も差し迫つて居りますから一分間の間に御意見がなければ御異議のないものと認めます。夫れでは御異議がないものと認め閉會と致します……」之で穩かに總會終了續いて宴會に移る。

此の日、本部から御來橋と聞いて萬障を排し參集せる會員實に五十餘名の多數に及び殊に折柄商用で來縣の鐘紡の石坂虎治郎君、横濱の西山練治君等が此の催を聞き傳へ馳せ參ぜられたのは誠に頼もしく感じられた。

自己紹介が始まる。

校長閣下……私は針塚で上田に居ります。(笑)幼少の頃よく前橋へ出て來ましたが随分大きな町と思ひました。前橋中學に入學して寄宿に入る事になつたが當時の慣例で新入者

